北斗通信
（令和７年３月号）

１. 埼玉県　私立中高協会　令和８年度入試申し合わせ決定　１
　資料①　埼玉県私立中学・高校８年度入試申し合わせ　９
２. 埼玉県　令和７年度　私立高校入試概況　２
３. 埼玉県　令和７年度　公立高校入試概況　２
４. 東京都　令和７年度都立高校一般入試結果から　５
　資料②　都立高校一般入試結果　総括表　11
５. 千葉県　公立高校入試の結果から　６
　資料③　千葉県公立高校入試の概況　12
６. その他の話題　７
　・千葉県　令和８年度入試変更点　７
　・埼玉県　令和９年度公立高校入試改革　中１生に告知　７
　　資料④　中学校１年生へのリーフレットから　13
　・就学支援金増額へ　８

会員限定情報「北斗通信」
　令和７年３月 12 日
岩佐教育研究所
TEL048-688-4698
FAX048-675-0219
E - mail　shohokuto@gol.com
無断転載を禁じます。

埼玉の私学に変化なし

１.　埼玉県　私立中学高等学校協会８年度入試申し合わせ決まる
資料①　埼玉県私立中学・高等学校　令和８年度入試申し合わせ

埼玉県私立中学高等学校協会は令和 7 年 2 月の理事会で, 8 年度の中学・高等学校入試の申し合わせを決めた。

高校入試では, 平成 21 年度入試から公立高校の入試一本化に合わせて, 1月22日の解禁日のみの一本化を実施している。

なお, 中学校・高校入試とも, 令和 7 年度入試の申し合わせと同内容となっていた。

高校入試では, 2 年度から,「インターネット環境の準備のない家庭, 不慣れな生徒・保護者への配慮に留意」で, インターネット出願校の増加に伴う内容が加筆されている。

令和 3 年度から実施された, 授業料無償化政策は, 6 年度になり年収 720 万円未満の県内世帯の生徒の県内私立高校の (授業料40．3万円, 609万円未満は, 入学金支援10万円, 500万未満はさらに施設費等20万円)によって, 受験生の志望校の選択に大きく影響を与えてきている。

申し合わせの文面は同じでも, 新型コロナの「蔓延防止」と, 7 年度大学入試からの第二期大学入試改革, 国の授業料無償化政策の拡大などが, 公私立の入試に与える影響は大きい。

県内私学の入試日程は，解禁初日に集中し，ほぼ３日間で全体の９割が終了しています。
公立出願の前に，単願，併願とも終了するという仕組みは，分かり易く，受験生にとっても受けやすい入試となっています。
令和７年度入試では，公立は出願 1.11 倍，確定 1.10 倍，実受検 1.10 倍と推移し，合格倍率は 1.17 倍と前年より 0.01 倍上昇しました。併願で私立に入学する公立高校の不合格者は，前年より 156 人増加して 5,225 人となっていました。
在籍の減少約 270 人に対して，募集人員を 120 人減少させましたが、公立志望者の減少は続いています。その大きな要因は，県内外の通信制高校への第一志望者の増加のようです
定員を減らしても希望者は増えず，倍率は低下する状況が続いています。

２．埼玉県私立高等学校　令和７年度入試の出願状況から

声の教育社がまとめた令和 7 年度県内私立高校の入試状況(3 月 5 日現在)では，

単願･併願計で，応募数を大きく増やした学校は，浦和学院(単 568 人⇒563 人，併 2,916 人⇒3,393 人)，栄東(単 32 人⇒57 人，併 2,800⇒3,035)，西武文理（単併 1,454 人⇒1,803)，狭山ヶ丘(単 142 人⇒229 人，併 656 人⇒897 人)，開智(単 188 人⇒260 人，併 1,276 人⇒1,520 人)，浦和麗明(単 186 人⇒223 人，併 831 人⇒1,066 人)，などとなっていた。

大きく減少したのは，春日部共栄（単 316 人⇒269 人，併 1,904 人⇒1,442 人)，西武台(単 243 人⇒202 人，併 1,575 人⇒1,244 人），浦和実業(単 553 人⇒525 人，併 3,576 人⇒3,301 人)，埼玉栄（単 594 人⇒553 人，併 1,740 人⇒1,504 人)，花咲徳栄(単 439 人⇒396 人，併 2,241 人⇒2,043 人，大宮開成(単 155 人⇒100 人，併 1,406 人⇒1,246 人)などとなっていた。前年同日対比で単+併の前年との差。尚，内部進学者，3 月 1 日以降の入試，※帰国生を含まない。

隔年で増減となっている学校が目に付いた。学校方針や学事課の指導により募集の引き締め等を図ったと見られるケースもあり，数値は必ずしも人気動向ではない。

大学入試の改革や新学習指導要領を前提とした積極的な対策を掲げる学校も増加し，県内私立への単願希望者は安定している一方で，少子化の進行からか併願者を大きく減らした学校が目立った。

埼玉の私学への学費助成の拡大，それに伴う他の都県進学者への非支給，あるいは，大学入試改革や首都圏の大学の人気の高まりなども，公立に対して私学には追い風となっている筈だ。

しかし，国の就学支援金の拡大が，私学選択の自由化に繋がり，来年の募集は，都内への進学者の拡大になる可能性もある。

令和 7 年度埼玉の公立入試の最終倍率は 1.17 倍と前年の 1.16 倍からやや上昇しました。
私学の併願の歩留まりでは，公立の不合格者は，追検査の受験生を含めた合格発表としたためか，不合格者は，昨年よりやや増加し 5,225 人となっていたため，前年よりやや上昇したと思われます。また，全体的には，少子化の中で単願志願者は安定しているため，私学志向の高さを感じますが，①大学入試改革の影響。②公的テストを含め，中学校の進路指導への配慮　③学費助成の拡充。④学校説明会・個別相談の実施。⑤個別相談基準の冗長度　などが学校選択に影響しているように感じられます。

３．　埼玉県　令和７年度公立高校入試状況から

令和７年度　公立高校入試結果

埼玉県公立高校の 7 年度　入試日程は，次のとおりだった。出願は，インターネットを利用したものに変ったため，都内の国立・私学入試の入試日 2 月 10 日には，出願が終了している。

このため，志願先変更時点での上位校の志願取り消しの人数の増加が予想された。

１月２７日（月）～２月１０日（月）	出願入力期間(インターネットを活用した出願)
２月１３日（木），１４日（金），１７日（月）	出願書類の提出 １３日は郵送による提出
２月１８日（火）、１９日（水）	志願先変更期間
２月２６日（水）	学力検査
２月２７日（木）	実技検査、面接(一部の学校)
３月　３日（月）	追検査
３月　６日（木）	入学許可候補者発表

2 月 10 日教育局は，令和 7 年度公立高校の出願状況を発表した。
日程的には，前年より，やや遅めに設定されている。

全校がインターネットを利用した出願になることと，新型コロナ，インフルエンザに罹患した生徒に対する追検査が日程に組み込まれ，追検査の後に合格発表が行われる点が変更点だった。さらに

① 今春の大学入試受験生は，高等学校の学習指導要領の完成学年であり，大学入試では，新たな大学入試改革に臨む学年であること。
② 国での就学支援金の上限(家庭の年収 910 万円)が無くなる事，更には来春からの私学への授業料支援が論議されていること。
③ 高校進学フェアが，解禁となり，学校を知る機会が広げられていたこと。
④ 学習指導要領の改訂と同時に，要録・調査書の各教科の評定の基となる観点別評価の観点の変更の 4 期生であったこと。

等があり，また，12 月 15 日付進路希望調査から公立志向の停滞が予想された。

一方，中学校卒業予定者は，前年より約 270 人減少するため，公私比率では，160 人程度の減少の見込みだったが， 3 学級 120 人の募集減を行っている。

7 年度公立入試は，システム的には，前年に引き続いており変更点はない。

8 年度入試から，調査書の記載箇所の変更と，各校の選抜基準の変化が予定されている。また，県立 12 校の 6 校への再編，新しい学科の設置の予定となる。9 年度入試から，調査書の内容の大きな変化と，出願に当たって，自己評価資料を提出することと，全校で面接を実施する等の変更が発表されている。

（出願～志望校変更）

全日制課程の応募者は，38,854 人で，前年の 39,587 人より，733 人(前年は 483 人減少)減少していた。

12月15日現在の進路希望調査での公立全日制希望者数 39,558 人の 98.2%(前年 99.5%)となっています。12月15日以降に志望校変更した生徒は 704 人だったことになる。

定員から転編入枠を差し引いた募集予定数 35,001 人に対する倍率は，1.11 倍(令和 3 年度は 1.10 倍，4 年度は 1.10 倍，5 年度は 1.11 倍，6 年度は 1.13 倍)となっています。

また，普通科の応募者は，30,223 人と前年の 30,226 人より 3 人減少し，1.17 倍と，前年を 0.01 倍上回っていた。

普通科の学校ごとでは，倍率が 1.5 倍を超えた高校は，市立浦和 1.96 倍，川口市立 1.71 倍，大宮 1.64 倍，浦和南 1.57 倍，浦和 1.55 倍，川越 1.54 倍，大宮北 1.50 倍など前年の 8 校より 1 校減り 7 校となっている。

また、普通科以外では，大宮・理数 2.65 倍，大宮北・理数 2.35 倍，越ケ谷北・理数 2.10 倍，市立川越・国際経済 1.59 倍，市立川越・情報処理 1.56 倍，蕨・外国語 1.50 倍などが高倍率だった。

普通科 26 校と専門学科 30 校 71 学科，総合学科 5 校で定員を割っている。

志望校変更後の普通科高倍率校では，市立浦和 1.96 倍⇒1.75 倍，川口市立 1.71 倍⇒1.68 倍，大宮 1.64 倍⇒1.51 倍，浦和南 1.57 倍⇒1.55 倍，浦和 1.55 倍⇒1.47 倍，川越 1.54 倍⇒1.47 倍，大宮北 1.50 倍⇒1.48 倍などと倍率を下げていた。

インターネット出願に変わったことで，出願期間が早まり，東京の私立一般入試の 2 月 10 日と重なったためか浦和で 29 人，大宮で 42 人，川越で 24 人等の出願変更・取り消しがあった。

定時制課程では，募集人員 1,980 人に対し，1,103 人が出願，1 人が志願先変更で減少，志願確定が 1,102 人となっている。

（実受検～合格発表）

2 月 26 日の学力検査受験者は，全日制全体で 38,587 人，事前取り消しが 116 人，欠席が 92 人で倍率は 1.10 倍，うち普通科は，29,983 人，取り消しが 92 人，当日欠席が 71 人で倍率は 1.15 倍となっていた。

上位校での事前取り消し・欠席は，浦和 15 人(前年 42 人)，大宮 6 人(同 19 人)，浦和第一女子 8 人(同 18 人)，川越 5 人(同 4 人)，春日部 5 人(同 7 人)などとなっていた。

前年は，出願日程が東京の私学の一般受験日程の前となり，その後，受験日までに合格発表があったため，上位校で受検辞退者が多かったようだが，今年度は，志願先変更で取り消しが多くなっていた。

入試状況の推移
受験者数は学力検査受験者数　7 年度は追検査を含む

全日制	予定者数	受験者数	合格者数	不合格者	実質競争率
26 年度	39,841	47,015	39,769	7,082	1.18
27 年度	39,520	46,481	39,478	7,003	1.18
28 年度	39,321	46,906	39,346	7,560	1.19
29 年度	39,361	46,536	39,215	7,321	1.19
30 年度	38,320	44,439	37,698	6,748	1.18
31 年度	37,640	43,531	37,133	6,398	1.17
令和2年度	36,880	41,393	36,266	5,127	1.14
3 年度	36,040	39,156	34,680	4,476	1.13
4 年度	36,961	39,888	35,120	4,769	1.14
5 年度	36,002	39,606	34,598	5,008	1.14
6 年度	35,130	39,011	33,935	5,069	1.15
7 年度	35,001	38,449	33,224	5,225	1.16

普通科の入試状況　7 年度の受験者数は追検査を含む

普通科	予定者数	受験者数	合格者数	不合格者	実質競争率
26 年度	29,381	35,394	29,484	5,890	1.20
27 年度	29,180	35,239	29,334	5,905	1.20
28 年度	29,061	35,648	29,278	6,370	1.22
29 年度	29,101	35,267	29,238	6,029	1.21
30 年度	28,234	33,962	28,234	5,728	1.21
31 年度	27,755	33,089	27,613	5,476	1.20
令和2年度	27,158	31,211	26,941	4,270	1.16
3 年度	26,479	29,902	25,949	3,953	1.15
4 年度	27,381	30,707	26,515	4,192	1.16
5 年度	26,562	30,633	26,130	4,503	1.17
6 年度	26,007	29,834	25,564	4,264	1.17
7 年度	25,877	29,874	25,240	4,634	1.18

学力検査実受験者 38,379 人に対して，合格発表時の実受験者は 38,449 人で 70 人の

増加となっていました。これは，追検査の受験者数が含まれているためと思われる。合格発表では，募集予定数に対して 80 人の合格超過が出ており， 不合格者が 5,225 人となっていた。前年 5,069 人より 156 人増加している。但し，前年までは追検査受験数は入っていない。

参考　公立高校入試平均点の推移　　予想点は入試直後の県教育局の予想平均点（目標平均点）

平成 28 年度	57.9	58	51.1	50	57.4	50	63.7	55	39.2	50	269.4	69
平成 29 年度一般	53.3	55	44.4	48	52.0	48	60.6	55	48.5	50	258.8	261
平成 29 年度選択			43.2	60	71.9	65					277.5	263
平成 30 年度一般	52.8	55	44.0	48	55.9	48	55.9	55	51.7	50	260.3	256
平成 30 年度選択			43.7	60	58.9	65					263.0	285
平成 31 年度一般	58.3	55	42.3	48	47.7	48	60.3	55	44.5	50	253.1	256
平成 31 年度選択			53.5	60	64.3	65					280.9	285
令和 2 年度一般	57.2	55	67.9	50	52.2	48	55.4	55	51.1	50	283.8	256
令和 2 年度選択			55.2	60	64.3	65					283.2	285
令和 3 年度一般	68.7	55	62.2	55	51.4	50	62.6	55	56.2	50	301.1	258
令和 3 年度選択			56.0	60	61.6	65					305.1	285
令和 4 年度一般	62.9	55	48.0	55	52.6	50	52.9	55	52.5	50	268.9	265
令和 4 年度選択			42.6	60	58.3	65					269.2	285
令和 5 年度一般	57.1	60	55.8	60	45.8	60	64.1	60	58.2	60	281.0	265
令和 5 年度選択			50.5	60	56.7	60					286.6	285
令和 6 年度一般	58.1	60	51.7	60	53.4	60	65.7	60	51.6	60	280.5	300
令和 6 年度選択			50.2	60	54.8	60					280.4	300
令和 7 年度一般		60		60		60		60		60		300
令和 7 年度選択				60		60						300

7 年度入試県の予想点は、全教科 60 点の 5 科 300 点（選択問題採用 300 点）と発表されている。令和 5 年度までは 5 割 3 分前後だったが，最近では 6 割を目標値に変更したようだ。

記述問題の部分点は、各学校の裁量となっており、厳しく採点した学校とそうでない学校の混在になっている点に注意が必要となろう。

4．　東京都　都立高校一般入試結果から（一部再掲）
資料②　東京都　都立高校一般入試結果　総括表

（入試の背景）

都立では， 平成 28 年度入試から，一般・分割前期の共通問題では，全校マークシート方式で実施となった。

30 年度では，進学指導重点校 6 校と，進学重視型単位制 3 校については，国数英の 3 教科を自校作成に変えている。

令和 3 年度入試では，合格発表を掲示前にウェブサイトにて行うこと。学力検査問題を一部出題しない等の変更を行っている。

4 年度入試からは，男女別の定員制の緩和が実施され，これまで 5:5 だった高校全校で 10%の相互乗り入れ方式となった。

5 年度では，ネットによる出願の全校採用と，男女別定員の 20%の緩和になり，英語のスピーキングテストが採用されている。

6 年度では，男女別定員の撤廃が実施され，推薦で集団討論が解禁となった。

7 年度では，大きな変更点はない。

都内公立中学校の卒業予定者は，公私連絡協議会資料で 77,809 人と前年度の 78,025 人より 216 人の減少予定だが，計画就学率は前年度から 93%に変更した影響もあり，都立高校の全日制募集定員は 40,315 人と前年より 320 人(8 学級)の定員減を行っていた。尚，

前年から男女別定員撤廃のため，発表値はすべて男女合同人数となっていた。

(推薦による選抜)

推薦入試では，全日制普通科(含むコース・単位制)の応募者は前年より 159 人増加し，17,907 人になった。また，受験倍率は 61 名の辞退者があったが，推薦の募集人員の 53 人の増，合格者の 47 人の増などの影響があり 2.86 倍と昨年より，0.02 ポイント下降した。全日制全体では，2.47 倍と前年と同様だった。

8 年前小論文・作文・実技・集団討論など結果を重視した選抜への変更以来，推薦希望者は，大幅に減少してきた。その後，推薦定員を 約 2,500 人減少させたことの影響が続いているようだ。

6 年度では，外的な要因としては，大学入試改革や，都内生の私学進学者は，授業料無償の政策が打ち出されるなど，私学志向の増加が予想された。

普通科の学校別で 5 倍を超えた学校は，1 昨年の，青山 7.7 倍，東 5.0 倍，鷺宮 5.0 倍のから，前年の鷺宮 5.6 倍，小岩 5.1 倍の 2 校になり，今年度では三田 5.3 倍，本所 5.2 倍，板橋 5.0 倍の 3 校となった。

全日制全体の倍率では，2.47 倍（昨年は 2.47 倍と変わらなかった。

(一般・分割前期結果)

一般・分割前期の応募状況では，全日制の募集人員は，前年より 265 人少ない 30,078 人(普通科は 220 人少ない 23,999 人)，応募総数では，前年より 3,299 人少ない 38,718 人となった。応募倍率は，前年より 0.09 ポイント高い 1.29 倍となった。島しょ等・コース制・単位制を除く普通科は，2,708 人減の 28,843 人で前年より 1.11 ポイント低い 1.36 倍となっていた。

合格状況では，全日制普通科全体の倍率が，1.30 倍，専門学科でも，1.14 倍と前年との普通科 1.39 倍，専門学科 1.16 倍から大きく下がっていた。

総合学科を含めた全日制合計では 1.27 倍となり，全体の受験生は 35,877 人で前年の 39,054 人から 3,177 人減少していた。

出願から実受験までの志願取り下げ，欠席者は，2,714 人だった。前年より 117 人減少している。

全体的には，穏やかな入試となっているようで，普通科の実質倍率の高倍率校は，豊島 1.97 倍，豊多摩 1.87 倍，神代 1.82 倍，駒場 1.76 倍，上野 1.75 倍，青山 1.68 倍，北園 1.68 倍，石神井 1.65 倍などとなっていた。

全日制の最終合格者（分轄後期を含めず）は，前年より 808 人少ない 28,188 人。入学手続き者は 28,005 人で，183 人(前年 175 人)が入学を辞退した。

都立高校の普通科の男女の定員制の撤廃によって，男女の倍率は，全く見えなくなっています。
また，推薦の受験生の増加，一般の出願者の減少は，私立にとって併願の歩留りが益々読みづらい状況になっています。
私立の生徒への授業料無償政策や，年収の上限撤廃等、私立優位の政策が打ち出された結果とも見えます。

5．　千葉県公立高校の入試状況から

資料③　千葉県公立高校の入試状況

令和 6 年度の千葉県公立高校入試から選択問題は，マークシート方式となり，記述問題はデジタル採点方式が採用されている。

また，前年度は，県立 12 校と市立 3 校の計 15 校でインターネットによる出願が実施さ

れたが，7 年度入試では出願及び受験料のキャッシュレス決済が採用された。

合格発表は，ネットと掲示の併用としている。

入試選抜としては，5 教科の学力検査のほかに適性検査・面接・集団討論・自己表現・作文・小論文などを課す学校が，全日制 118 校 192 学科，定時制 16 校 16 学科で実施される。このため入試日程は2日に亘っている。

適性検査は，芸術系，体育系など 8 校 13 学科で実施，思考力を問う問題が県立千葉，東葛飾，千葉東の 3 校で実施された。

千葉県内の国・公・私立中学校の卒業予定者は，約 52,320 人で，前年より約 870 人減少する見込みとなっておいるが，公立への出願者の減少が見込まれ，募集人員は，24 学級 960 人の定員減が実施された。

全日制では，募集予定数の，29,720 人に対して出願者は，34,003 人で，1.14 倍(前年 1.13 倍)となっていた。

普通科・総合学科の学校ごとの出願倍率で高かったのは，東葛飾 2.17 倍を筆頭に，船橋 1.92 倍，幕張総合 1.71 倍，薬園台 1.68 倍，小金 1.64 倍，船橋東 1.60 倍などだった。

志願確定時点で 149 人の志願取り消しがあり，確定倍率は 1.14 倍になっている。

実受験では，当日欠席が 338 人(前年 435 人)あり，33,854 人となった。また，追検査志願者が 95 人となっていた。全日制合計の合格者は，27,964 人で，実質倍率は，1.21 倍となった。

6．　その他の話題

千葉県　令和 8 年度からの入試改革

千葉県では，8 年度入試から，配慮の必要な生徒の心理的負担等とならないよう、調査書の記載項目を精選する。削除する項目は、以下の４つ。

- 総合的な学習の時間の記録
- 出欠の記録
- 行動の記録（第３学年）
- 総合所見

なお、令和７年度入学者選抜においても、不登校経験を有する生徒について、在籍する学校における出席の状況のみをもって不利益な取扱いをしないこととしている。また、欠席が多い理由について、自己申告書を提出することができる。自己申告書が提出されたことによって不利益な取扱いをすることはない。

また，国語における「聞き取り検査」を

話し合いの場面等を設定した文章による出題とすることで、「話すこと・聞くこと」の領域に関する資質・能力を複数の問題から、見取ることができるようにする。

と変更される。

埼玉県　令和 9 年度公立高校入試改革　中学 1 年生へ告知
資料④　埼玉県　中学 1 年生へのリーフレットからの入試改革

埼玉県教育局は，12 月に令和 9 年度入試からの入試改革についてのリーフレットを作成して，中学校を通じて配布した。

これまでの記載内容の通りだが，調査書の特別活動記載欄やその他の記載欄がなくなったことや自己評価の記載，面接などの扱いがよ

り詳細に記載されていた。部活動参加の是非や，各種検定の取得などの要件については，結果ではなく，そこに至るまでの努力過程や今後への意欲などを評価するとしている。

調査書の記載内容が変わっても，本人が書いた自己評価資料と面接があり，面接の結果を 30 点/60 点で評価するとしています。また特色選抜で適性検査や作文(小論文)を実施するとしています。これらが資料になることから考えると基本的には何も変わらないと思われます。

当面は，通知表の内容も，学習指導要録の変更がない限り，変わらないと思われます。また，私学の個別相談の資料も変わりません。

また，検定の級の取得は，生徒たちにとって一生積み上げていく資格の入り口と言えると思います。大学入試や就職試験でも価値が下がっていくとは思えません。

国の就学支援金　令和 8 年から増額へ

国の就学支援金が令和 8 年度から 45 万 7 千円を基準として引き上げられる予算措置が進んでいる。

現在，令和 7 年度の予算案の検討が進む中，与野党が合意に達したことが報道された。
910 万円の世帯収入の上限も撤廃されると見られる。

閑話休題

令和 7 年度入試が終了し，入試検証の時期がやってきました。

現在審議されている国の予算案の中で，就学支援金を 910 万円の制限をなくすこと，私立在籍者への授業料助成を最大 45 万 7 千円にすることが注目されています。東京都で 6 年度から 48 万 4 千円の支援と世帯年収上限の廃止を実施し，大阪でも令和 6 年から学年進行(3 年生から)で 8 年には全学年 63 万円まで無償となります。

但し，現在，大阪は，施設費を含み，埼玉は，入学金支援と施設費支援が実施されています。国の支援は授業料のみですので，それ以外の学費を各県でどのように支援していくのか注目されます。

1 月に発表された埼玉の「いきいきハイスクール推進計画」は令和 20 年までに公立中学校の卒業生が，現在の 5 万 9 千人から 4 万 4 千人に減少すると見込まれるため，県立高校を 15 校～19 校減らすというものです。

前年 12 月に朝日新聞が本紙集計として 6 年度の出生数を 68 万 7 千人と推計しました。5 年度の 72 万 8 千人と比較して 5.5%減少しています。本年度の中学 3 年生の出生数が約 107 万人から比較すると 64%になる計算です。

首都圏は，やや緩やかになると思いますが，急速な少子化は教育や産業だけではなくあらゆることに関わってくると思います。

3 月 11 日，東北大震災の 14 年目に当たります。10 年毎に地震・コロナと天災が襲ってくる恐ろしい時代となってきました。能登沖地震，大船渡市の山林火災などを含め天災で亡くなった方々のご冥福をお祈りいたします。

資料①

令和７年２月１２日

《　埼玉県私立中学校・中等教育学校　》

【令和８年度生徒募集並びに入学者選抜に関する申し合わせ】

一般社団法人　埼玉県私立中学高等学校協会

私立学校の存在意義は、その教育理念の自由と独自性にあり、生徒募集並びに入学者選抜についてもその一環として実施され、各校独自の教育活動の基盤となっている。

一方、私立学校は公教育の担い手として、国民に対して学校選択の機会均等を保障するとともに、入学者選抜の公正を期する責任がある。

そこで埼玉県私立中学高等学校協会は、私立中学校の教育上の影響力並びに近隣都県の私立中学校・中等教育学校との関係を考慮し、加盟校の総意に基づき埼玉県私立中学校・中等教育学校における「生徒募集並びに入学者選抜」について、下記のとおり申し合わせる。

記

（１）中学校・中等教育学校における生徒募集の対象となる組織や機関は、主として学習塾、テスト業者等民間機関であって、募集業務は民間企業における営業活動の傾向をもつが、私立中学校・中等教育学校の募集活動においては、公共性を持った募集活動であるという点を考慮しなければいけない。

（２）県内における入学試験の開始日は、令和８年１月１０日(土)以降とする。

（３）入学者選抜（以下「入試」という。）における入試科目、採点方法、推薦入試の推薦基準、推薦人の資格、推薦に伴う入試相談、合否の診断、入試の回数等、全て個別の中学校・中等教育学校の自由とする。

ただし、これら全てを入学案内、あるいは入試要項に明記して事前に公開し、入試の公正と透明性を堅持する。

（４）他都県に進出して入試を実施する場合は、当該都県の私立中高協会が定める「申し合わせ」に従って、募集及び入試を実施するものとする。

（５） 帰国子女入試については、そのおかれている状況に配慮して行うものとし，その対象者となる帰国子女の海外滞在期間等の条件は、各校の判断とする。

令和７年２月１２日

《　埼玉県私立高等学校　》

【令和８年度生徒募集並びに入学者選抜に関する申し合わせ】

社団法人　埼玉県私立中学高等学校協会

私立学校の存在意義は、その教育理念の自主性と独自性にあり、生徒募集並びに入学者選抜もその一環として実施され、各校独自の教育活動の基盤となっている。

一方、私立学校は公教育の担い手として、国民に対し学校選択の機会均等を保障すると共に、入学者選抜の公正を期する責任がある。

そこで埼玉県私立中学高等学校協会は、加盟校の総意に基づき埼玉県私立高等学校における「生徒募集並びに入学者選抜」について下記のとおり申し合わせる。

記

１．入学者選抜の種類と日程について

（１）入学者選抜の開始日は、令和８年１月２２日（木）以降とする。

（２）各入学試験の「単願」・「併願」の区別を明確にする。

・「単願」とは、当該学校を第一志望とする志願者のための試験とし、それ以外の志願者のための試験を「併願」とする。（「単願」のみの入試を行なう学校は、「単願」・「併願」の区別をする必要はない。）

・「単願」・「併願」のそれぞれにおいて、試験の内容や手続の条件等を異にする試験を実施する学校にあっては、「単願①」「単願②」・・・と区分し、それぞれの内容の説明については、入試要項に明記する。

２　入学手続と入学手続金、入学延納手数料について

（１）各入学試験合格者の入学確定手続きについては、締切日とそれに伴う条件について、入試要項に明記する。

（２）入学手続金、入学延納手数料等の納入については、平成１８年１１月２７日（月）の学納金裁判における最高裁判所の判決の主旨に基づき、受験生の負担が合理性を欠いたものとならないよう配慮する。

３　出願書類について

中学校に求める「調査書」及び「学習の記録と学年内評価分布表」等は、原則として公立高等学校に提出するものと同一のものとする。

４　生徒募集について

（１）学則定員・募集定員を遵守する。

（２）各校において中学校の教員に対する入学者選抜説明会を行う場合は、毎年１０月１日以降とし、原則として当該私立高等学校内で、午後３時以降とする。ただし、中学校の校長が求めた場合に実施する「進路打ち合わせ」は、毎年１２月１５日以降とする。

（３）中学校の生徒及び保護者等を対象として行う学校説明会、入試相談等については、協会として制限を設けないが、公正を欠くことのないように留意する。なお、入試相談等において２学期の成績を用いる場合は、上記⑵を勘案し１２月１５日以降に実施するものとする。

５．他都県への進出入試について

他都県へ進出して入試を実施する場合は、当該都県の私立中高協会が定める「申し合わせ」に従つて、募集及び入試を実施するものとする。

６．その他

（１）埼玉県中学校長会の申し入れにより、部活動（運動部・文化部）における『セレクション制度』を実施する場合には、機会の公正・公平さを図るため、学校案内・募集要項等にその部活動名等を記載するものとする。

（２）帰国子女入試については、そのおかれている状況に配慮して行うものとし，その対象者となる帰国子女の海外滞在期間等の条件は、各校の判断とする。

（３）出願などの各種手続きにおいて、インターネット環境のない家庭や不慣れな生徒・保護者がいることも想定した手続き方法となるよう留意する。

東京都 令和６年度都立高校 一般･分割前期入試総括表

課程	区分	学科・区分	校数	募集人員(A)	受検人員(B)	合格人員(C)	実質倍率(B/C)
全日制	普通科	普通科(コース、単位制、島しょ、海外帰国生徒対象以外)計		21,255	26,812	20,556	1.30
			102	(21,481)	(29,385)	(21,191)	(1.39)
		普通科（島しょ)計		307	110	110	1.00
			6	(306)	(90)	(90)	(1.00)
		普通科(コース、単位制、海外帰国生徒対象以外及び島しょ)計		21,562	26,922	20,666	1.30
			108	(21,787)	(29,475)	(21,281)	(1.39)
		コース制計	[4]	224	255	225	1.13
			0	(224)	(341)	(229)	(1.49)
		単位制計		2,151	2,679	2,082	1.29
			11	(2,146)	(2,905)	(2,166)	(1.34)
		普通科合計		23,937	29,856	22,973	1.30
			119	(24,157)	(32,721)	(23,676)	(1.38)
	専門学科	商業科		792	740	698	1.06
			7	(795)	(782)	(745)	(1.05)
		ビジネスコミュニケーション科		231	223	201	1.11
			2	(231)	(238)	(221)	(1.08)
		工業科（単位制以外)		1,575	1,166	1,097	1.06
			15	(1,584)	(1,197)	(1,100)	(1.09)
		工業科（単位制）		96	64	64	1.00
			1	(108)	(82)	(82)	(1.00)
		科学技術科		252	227	235	0.97
			2	(252)	(310)	(262)	(1.18)
		農業科		413	518	426	1.22
			5	(413)	(462)	(401)	(1.15)
		水産科		42	43	43	1.00
			1	(42)	(42)	(42)	(1.00)
		家庭科（単位制以外)	[3]	222	188	182	1.03
			1	(222)	(210)	(176)	(1.19)
		家庭科（単位制）	[1]	49	42	42	1.00
			0	(49)	(52)	(50)	(1.04)
		福祉科	[2]	50	29	29	1.00
			0	(53)	(13)	(13)	(1.00)
		理数科	[2]	72	194	76	2.55
			0	(68)	(141)	(72)	(1.96)
		芸術科		112	186	118	1.58
			1	(112)	(205)	(118)	(1.74)
		体育科	[2]	52	82	50	1.64
			0	(52)	(52)	(39)	(1.33)
		国際科		98	147	101	1.46
			1	(98)	(195)	(101)	(1.93)
		併合科	[3]	105	11	11	1.00
			0	(105)	(18)	(18)	(1.00)
		産業科		252	234	230	1.02
			2	(274)	(285)	(262)	(1.09)
		専門学科合計		4,413	4,094	3,603	1.14
			38	(4,458)	(4,284)	(3,702)	(1.16)
	総合学科			1,626	1,927	1,612	1.20
			10	(1,626)	(2,049)	(1,618)	(1.27)
	全日制合計			29,976	35,877	28,188	1.27
			167	(30,241)	(39,054)	(28,996)	(1.35)
一橋・新宿山吹・浅草・荻窪・八王子拓真・砂川高校（定時制課程単位制）				1,125	981	878	1.12
			6	(1,159)	(1,091)	(902)	(1.21)
定時制課程単位制総合学科（チャレンジスクール）及び定時制課程単位制普通科（チャレンジ枠）			[8]	1,490	1,972	1,428	1.38
			7	(1,320)	(1,645)	(1,265)	(1.30)

※ 募集人員は転勤者生徒特別枠、転入学者特別枠、推薦入学手続者、連携型入学手続者、在京外国人生徒等対象、国際バカロレアコース、海外帰国生徒対象（帰国生徒対象・引揚生徒対象）及び分割後期募集の人員を除いた数である。

※ （ ）は昨年度の数値である。

※ 校数については複数の学科を併設している学校は、その学校の主たる学科欄において算入した。[ ]は併設校を含めた延学校数である。

※ 定時制課程単位制総合学科（チャレンジスクール）は、六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、稔ヶ丘高校、桐ヶ丘高校、小台橋高校及び立川緑高校をいう。
また、定時制課程単位制普通科（チャレンジ枠）は、八王子拓真高校（チャレンジ枠）をいう。

令和6年度 千葉県公立高等学校入学者選抜 「一般入学者選抜」

入学許可候補者の総数

(1)全日制の課程[124 校 199 学科]

ア　募集人員 29,720 人(30,680 人)

イ　入学許可候補者数 27,964 人(28,422 人)

※( )内の数値は、昨年度のものです。

(2)定時制の課程[16 校 16 学科]

ア　募集人員 1,277 人(1,277 人)

イ　入学許可候補者数 699 人(795 人)

※( )内の数値は、昨年度のものです。

(3)通信制の課程の一期入学者選抜[千葉大宮高等学校・普通科]

ア　募集人員 360 人(225 人)

イ　入学許可候補者数 175 人(213 人)

※( )内の数値は、昨年度のものです。

2 第 2 次募集等の募集人員

(1)全日制の課程

ア　実施校 47 校 76 学科(56 校 92 学科)

イ　募集人員 1,760 人(2,259 人)

※( )内の数値は、昨年度のものです。

(2)定時制の課程

ア　実施校 15 校 15 学科(15 校 15 学科)

イ　募集人員 578 人(482 人)

※( )内の数値は、昨年度のものです。

(3)通信制の課程の二期入学者選抜

ア　実施校 千葉大宮高等学校・普通科

イ　募集人員 138 人(119 人)

※( )内の数値は、昨年度のものです。

埼玉県中学校１年生向けのリーフレット

中学校１年生の皆さんへ

皆さんが社会で活躍する頃には、厳しい挑戦の時代となることが予想されています。
グローバル化や技術革新など社会構造は急速に変化し、将来を見通すことが難しい時代を迎えています。
このような時代では、様々な変化に積極的に向き合い、課題を発見し、他者と協働して課題を解決していく力や、様々な情報を見極め、知識を概念的に理解し、情報を再構築して新たな価値に繋げていく力、複雑な状況や変化の中で目的を再構築をすることができるような力も求められています。皆さんには、学校内外での様々な活動を通して、こうした力を育み、どのような社会になっても、自らの幸せを実現できる、そして多様な人々と協力しながら、より良い未来を創っていける人に育ってほしいと思います。
そんな願いを込めて、令和９年度入学者選抜を実施します。

01 調査書の様式変更と自己評価資料の提出

＃自分を"探究"しよう

中学生の学校内外における活動の多様化　→　**調査書**とともに、**自己評価資料**を全受検生が提出します。

調査書 …中学校が作成

「各教科の学習の記録」（９教科５段階の評定）
「総合的な学習の時間の記録」が記載されます。

＋

自己評価資料 …**受検生**が作成

部活動や委員会活動、資格取得など、学校内外での活動やその意欲などを、自らの言葉で表現して記入します。　※面接で参考にします。

学習の成果は調査書に！

学校内外での取組内容は自己評価資料に！

02 面接をすべての受検生に実施

＃自分の"思い"を言葉にしよう

- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
- 学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性等」

→ ３つの資質・能力を総合的に評価するために**学力検査**（国・数・社・理・英）とともに、**面接を全受検生に実施します。**

◆具体的にどのような面接が行われるの？

- 個人面接 or 集団面接（各高校が選択）
- 「共通の評価の観点・評価規準」に基づいて、評価します。
  ※各高校が学校独自の項目を設定して、評価の観点及び評価規準を定めて評価する場合もあります。

≪共通の評価の観点と評価基準≫

１ 主体的・協働的な学びの力

これまでの自身の活動を振り返りながら持続可能な社会の創り手となるために主体的・協働的に学び続ける意欲をもっているか。

２ 自らの人生や社会の未来を切り拓く力

自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重しながら自らの人生や社会の未来を切り拓こうとしているか。

◆面接では何を話せばよいの？

受検生の皆さんが、これまでの自分の体験を振り返り、力を注いだことや努力をしたこと、また高校入学後や将来取り組んでみたいこと、自己ＰＲなどについて、自己評価資料にまとめ、面接で自らの言葉で表現してください。

03　選抜の特色化

#高校選びは"自分探し"の旅

受検生が興味・関心を持って主体的に進路選択できるよう、
各高校が「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）に基づいた選抜を実施します。

↓

選抜を特色化（共通選抜と特色選抜を導入）

◆受検する高校はどのように決めたら良いの？

興味のある高校の特色と、その高校の設定した選抜方法（選抜実施内容）を見て、自分の資質・能力を生かすことができる、成長させることができるような学校を選んでみてください。

◆共通選抜と特色選抜では、何が違うの？

共通選抜

各高校は、県が定める次の方法によって、選抜資料の得点を算出します。

- 学力検査　1教科100点（国数社理英）、合計500点満点
- 調査書　各高校は、９教科５段階の評定を1年:2年:3年＝1:1:1 or 1:1:2 or 1:1:3のいずれかを選択
  →この基本点を、200 or 300 or 400点満点に換算
- 面接　各高校は、30点 or 60点のいずれかを選択

特色選抜

学科、コース等の特色に応じて、各高校が定める方法で、選抜資料の得点を算出します。

- 学力検査　１教科100点（５教科）合計500点満点を基本点
  ３教科まで150 or 200点で傾斜配点が可能
- 調査書　評定の各学年の比率（1年:2年:3年）、得点は各高校が定める
- 面接　得点は、各高校が定める
- 特色検査＝実技検査 or 作文(小論文)
  実施する場合は、学力検査・調査書・面接に加えて資料とする

選抜を、共通選抜のみで実施するか、特色選抜のみで実施するか、
共通選抜と特色選抜の両方を組み合わせて実施するかは、**各高校が決定します。**

≪選抜実施内容≫

別紙3-3　令和９年度埼玉県公立高等学校入学者選抜実施内容　特色・共通

全日制	埼玉県立●●高等学校	○○科・▼▼科・□□科
目指す学校像	●●●を育む学校	
入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	●●を主体的に取り組み、●●に全力で取り組む生徒	
募集学科等【人数】	○○科・▼▼科・□□科	①特色 60%【00人】 ②共通 40%【00人】
選抜の種類	特色選抜	共通選抜
学力検査	国語・社会・数学・理科・英語の５教科 国語（200点） 社会（150点） 英語（200点） で傾斜配点を実施	国語・社会・数学・理科・英語の５教科
	数学と英語は、学校選択問題を実施する	
調査書	学年間の比率 1年 2年 3年 1 : 2 : 3　基本点 270	学年間の比率 1年 2年 3年 1 : 1 : 1　基本点 135
特色検査 ※実施する場合のみ	実施する 実施内容：実技（体育系） 評価の観点	
選抜資料配点	学力検査 750　調査書 400　面接 90　特色検査 400　合計 1640	学力検査 500　調査書 300　面接 60　合計 860

※学力検査の基本点×1.5 ≧ 調査書の得点＋面接の得点
　学力検査の基本点＋調査書の得点＋面接の得点 ≧ 特色検査の得点

共通選抜と特色選抜の両方を実施する高校の例

共通選抜と特色選抜の入学許可候補者の人数割合

学力検査の教科の得点
学校選択問題の有無
（特色選抜では傾斜配点の有無）

調査書の評定の各学年の比率
基本点
※評定は各学年９教科５段階の45点満点

学力検査・調査書・面接・特色検査の得点の合計

≪選抜の手順≫

共通選抜及び特色選抜の両方を実施する場合

特色選抜⇒共通選抜の順に選抜

共通選抜のみ又は特色選抜のみを実施する場合

- 第１次選抜、第２次選抜を設定
- 第１次選抜と第２次選抜では、複数の尺度に基づく異なる選抜方法を実施し、得点の取扱いに差を設ける。

04　Q & A

Q　新しい入試制度に向けて、どのような準備をすれば良いですか？

A　中学校生活では、中学生の皆さん自身が、主体的に自分のやりたいことや日々の学習、行事などの中学校での活動、学校外での活動等に積極的に取り組んでもらいたいと考えています。その取り組んできた過程（プロセス）があることで、自分に自信が持てるようになり、自己肯定感が上がったり、将来の夢が見つかったりすると思います。入試は、中学校生活の延長線上にあります。決して実績のあることばかりではなく、なぜその活動に取り組んだのか、そこから何を学び、成長できたのかを深く考え、自分の言葉で具体的に表現できる力を身に付けることで、それが入試、その先の高校生活にも繋がります。

Q　面接に向けては、どのような準備をすれば良いですか？

A　面接では、これまでの体験を振り返り、力を注いだことや将来取り組んでみたいことなどを、自らの言葉で表現してもらいます。そのため中学校では、様々な学習や諸活動等に積極的に取り組みながら、キャリアパスポートなどを活用して、自身の取組を積み重ね、常日頃から自己を探究し、自分を表現できるようにしてください。

Q　人前で話すことが苦手です。面接で不利になるのではないかと心配です。

A　話し方を評価するわけではありません。中学校３年間での自分自身の取組を、自分の言葉で自分なりに表現してください。

Q　自己評価資料は評価してもらえないのですか？また、どんなものを参考に書いたら良いですか？

A　自己評価資料そのものは評価しません。面接を行う際、補助的に参考とし、文章の上手い下手や多い少ない、部活動等で収めた結果や文字の上手い下手は、評価の対象となりません。自分自身で積み重ねた資料やキャリアパスポートなどを参考に、これまで頑張ってきたこと、自分の興味があること、将来の夢など、自分の「これまで」と「これから」を振り返り、整理しながら記入することが考えられます。

Q　部活動や生徒会活動、資格取得等の実績は、どのような扱いになりますか？

A　中学生の学校内外における活動が今後ますます多様化することから、新しい制度では、受検生が自らの言葉で表現して記載した自己評価資料を参考に面接を実施し、そこで実績そのものではなく、実績に至るまでの過程（プロセス）や意欲、身に付いた力、学びに向かう力などを評価します。

Q　新しい入試の情報は、どのように調べられますか？

A　以下の、県ホームページに新しい制度の情報を掲載しています。随時更新予定です。

・「令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜に関する情報」
https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/nyushi/r9nyushijyoho.html

Q　各高校の情報は、どのように調べられますか？

A　県ホームページにて、各高校のホームページ等の情報をまとめて掲載しています。

・県立学校の活性化・特色化方針【県立学校魅力発信サイト】
https://www.pref.saitama.lg.jp/f2219/gakkouhousin.html

また、InstagramやX、Facebookの教育委員会SNS公式アカウントにて、教育に関する最新情報も発信しています。

・「教育委員会SNS公式アカウント」
https://www.pref.saitama.lg.jp/e2202/kyouikusns/touroku.html

お問い合わせ
埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課
048-830-6760
a6760@pref.saitama.lg.jp

埼玉県公立高等学校入学者選抜情報
入試全般の情報はこちら